

津山市高齢者保健福祉・介護保険事業運営協議会 (第1回)

日 時：令和3年11月25日(木) 13時30分～15時30分
場 所：津山市役所2階 第一委員会室

1 開 会

出席委員：11名 過半数の出席により会議成立

欠席委員：5名

2 会長あいさつ

3 議 事

報告事項

(1) 令和2年度 事業実施状況に関して

① 「地域包括ケアシステムの構築」について……………資料1

委員 コロナ渦で今まで通りの実施方法ができない状況であるが、市民フォーラムや研修会などはリモートで実施したのか？

市 昨年度実施した事業はほとんどが集合研修の形で実施した。対象者がリモートでの対応が困難な方多かったため。市民フォーラムは特にご高齢の方で楽しみにされている方が多いため、感染症対策を行い、会場設営し開催した。職種研修の中ではリモートと会場参加どちらも可能とした形で開催したものもある。

委員 3ページの高齢者が活躍できる地域づくりの積極的に参加できる機会づくりとはどのような形を検討しているのか。

市 後の項目で説明する。

委員 令和2年度の実績報告を受けているが、今現在令和3年が半分過ぎている状況である。令和3年の状況も報告できないか。時期を考えて、現在のデータも報告があれば意見を言いやすい。

1ページの相談体制の充実の説明で、コロナ渦だから相談件数が減少したと説明があったが、コロナ渦だから訪問相談をしないといけないのではないか。相談を受ける形や人数把握に工夫をしたのか？

市 訪問相談の件数は減っているが、内容に変化があり、虐待や認知症など複合的な悩みを抱える相談内容が増加しており、一件当たりの対応時間が増えて職員一人が対応した件数が少なくなっている。電話や来所での相談件数は掲載していないが、件数は例年と同じ件数を対応している。

委員 電話や来所の件数も掲載すること。難しいケースも増えてきていると思うが、対応件数が減った理由にはならない。「コロナ渦だから」という理由がよくでてくるが、コロナ渦だから対応すべきと考える。しっかり検討してほしい。

委員 3ページの生活支援サポーターの男女別や年齢別の内訳を知りたい。実際に活動している人数は何人か。

市 男女比は女性が多い状況。活動している人数は30～40人程度と思われる。登録はしているが仕事などでまだ活動していない方が多い状況。

委員 コーディネーターの8人にしっかりしてもらいたい。

委員 コロナ渦でかかりつけ医などがワクチン接種を進めてきたが、このような状況だから地域住民の意見を聞き取るチャンスと考える。地域包括ケアシステムが高齢者にどれだけ意識してもらえているか、意識調査ができるのでは。

かかりつけ医の活用を周知するチャンスでもある。

ワクチン接種時にごんごバスの無料サービスもあったが、利用が少ない結果がでてくる。これは公共交通機関が移動手段の代替になりえない状況を如実に表しているのではないか。移動手段の確保をどのような形にするか今後の課題と感ずる。

市 いただいたご意見を参考に、アンケート作りに取り組む。

委員 美作市はワクチン接種の15分の待機時間を使ってフレイルのアンケート調査を行った。回答率がほぼ100%という精度の高い調査となっている。

このようによい機会もあるので、ぜひ検討を。

委員 高齢者の方々は公共バスがあってもその停留所まで行くことができない、ゴミステーションまでゴミ出しもできない方がおられ、今後増えていく。少ない年金でタクシーを使って病院や買い物に行かされている。津山でよい取り組みができればよい。

② 「健康づくりの推進」について……………資料2

委員 指標・目標値一覧にある色つきの数字の意味は何か。

市 確認する。

委員 自殺に関するPDC Aの表がないのはなぜか。

市 目標に「こころの健康づくり」があるが、自殺については自殺対策計画を策定しており、自殺への対策はその計画に基づいて行っている。介護保険事業計画ではこころの健康全般に対応し、対象を分けて実施している。

委員 介護保険事業計画には自殺予防も書かれている。ゲートキーパー養成などがある。計画にあるのならPDC Aにも記載するべきでは。コロナ渦で国内で自殺者が増えてきている。津山市も対応を。

市 より詳細に記載する。

委員 こけないからだ講座はフレイル対策で運動をしているが、フレイル対策として栄養の情報も周知してはどうか。高齢者に栄養の情報も重要であるが聞かれる機会がない。

市 こけないからだ講座では、運動中心に行っているが、こころ、栄養、口腔ケアについても聞いていただく機会を作っている。国も介護予防と保健事業の一体化を進めており、フレイル予防も一層進めていく方針が出されている。今後も、運動のみでなく、栄養や口腔ケアなどのフレイル予防についてもご提案のとおり取り組んでいく。

市 医療連携でも、12月10日にフレイル予防サポーター養成講座を開催する。栄養の知識を得て、市民に啓発していただく。医師会の協力をいただきながら地域の方々の栄養改善を支援していく。

委員 養成講座を行うが、そこで止まってしまわないよう、その先をサポートしてほしい。多人数に対応するだけでなく、個別対応に近いことができればフレイル予防が進むのではないか。

委員 こけないからだ講座は町内会単位で実施するとのことだが、全ての町内会で実施したなら何カ所になるか？令和2年度の214カ所は割合でいくらか。

市 市内の町内会は366カ所と記憶している。100%となるには366カ所であるが、大きな町内会では複数の開催場所がある。目標は、全ての町内会に1カ所以上、そして歩いて行ける場所にあるとしている。

委員 今日、多くの人がオレンジの服を着て集団で歩いているの見かけた。あれは何か。

包括 今日はオレンジウォークという、認知症の普及啓発のために行進した。認知症サポーターやキャラバンメイトの方と包括職員と一緒に市役所から鶴山公園までを往復した。本来であれば9月の実施であったが、コロナ渦で延期し本日となった。

委員 繰り返しになるが、ここにある数字も昨年のものである。認知症施策は9月が月間であり、今年も様々な事を行っている。昨年よりさらに進められているので、その当たりを評価する上でも資料に記載してほしい。認知症施策を主で進められた大塚委員に今年の報告をいただきたい。

委員 今年は川柳を募集し、子ども部門・大人部門で表彰した。その表彰の場で認知症啓発のための映画をあわせて上映し、関心を高める取り組みとした。コロナ渦だからこそという点に着目し、集うことはできないが家の中でできることとして、まず市民からオレンジの布を集め、集めた布の縫い手を募集し、ガーランドを作成した。そのガーランドを市役所や福祉会館に飾り、認知症を普及啓発した。布は企業からも提供をいただき、縫い手は認知症の方もいた。

「市役所をオレンジに染める」を目的に市役所1階の職員がオレンジTシャツを着て勤務した。地域の銀行や商店の方々もご協力いただいた。

10月には「本人ミーティング」という認知症の症状のある方や診断を受けた方が集まって本人が語れる場を作り、語った思いを形にしていく取り組みを進めている。

委員 美作大学も職員がオレンジTシャツを着た。

ふらっとカフェの設置箇所数は今年度は何カ所か。

市 27カ所。

委員 ふらっとカフェに報告書は求めているか。活動内容など。

市 設立後に状況を確認している。

委員 報告書を求められないという話を聞く。城東で美作大学の学生がふらっとカフェを実施しているが報告書を求められたことがないと話している。最初だけ市職員が来たのみ。市はふらっとカフェをどのように考えているのかと学生から質問があった。

また、代表者が交代したことを報告したが、未だに前の代表に連絡が来る。この機会に改善をお願いしたい。

市 12月にふらっとカフェのオーナーの交流会を企画している。活動内容などの情報交換の場を設ける。

④ 「高齢者福祉サービスの充実」について……………資料4

委員 高齢者が活躍できる地域づくりで高齢者の知識や経験を活かして学校などを通じて子ども達に伝えていくということは考えているか。

また、シルバー人材センターでは登録しているが体が動かず活動できない方が多くおられる。人員が不足しているが対策を考えているか。

市 教育委員会で、小中学校が地域の人材を活かした学習や行事を共に行っていく動きがある。高齢介護課としても老人クラブが活動範囲を広げることでさらに地域とのつながりができると考える。今後検討する。シルバー人材センターの人員不足は報告を受けていない。確認し、不足するのであれば広報誌で会員を募集するなど行う。

委員 高齢者は地元で危機管理の情報を持っている。昔からの言い伝えなどを活かして防災を行うことはどうか。

市 避難援護者や避難経路などハザードマップ以外の危険箇所もある。城西地区では公民館活動の中で防災について地域の方と相談して情報をまとめている事例もある。そのような活動を危機管理室と協力し広げていきたい。

委員 ふれあい収集事業についてケアマネ協会から意見がある。利用者数減少は、利用条件が訪問介護を利用している一人暮らしの人となっており対象者が限られていることが理由と考える。ゴミの収集時間が早朝で収集所に鍵が掛けられているため、対応できる時間が限られていることが大きなネックとなっている。そのため、訪問介護事業所の従業員が利用者のゴミを持ち帰り、従業員の自宅近くのゴミ収集所に捨てたり、

事業所ゴミと一緒に捨てるなどの方法で対応している事例が多くなっている。訪問介護事業所がサービス提供時間外で無償で対応している状況である。今まではシルバー人材センターを活用することもあったが、人員が少ないという理由で断られている。他には、民間事業者に依頼し、月に1回ゴミをまとめてゴミ焼却所へ持って行くという対応もしていたが、クリーンセンターでは事業者やコープの助け合いの会の協力員が持ち込んだゴミは個人のゴミとして受け入れてくれない。

ゴミ収集の課題が大きくなってきている。

ゴミ収集所まで持って行けない、開いている時間が限られているという状況に対応する方法がなくなってきており、大変困っている。生活支援サポーターを利用する方もおられるが、ゴミ収集の時間が早朝であるためサポーターが活動しづらい状況である。市内にゴミ屋敷が増えてきている。テレビで放映されているようなゴミ屋敷が市内でもたくさん起きている。

ゴミ収集の条件の緩和やふれあい収集事業以外の方法の拡充をケアマネ協会としても包括支援センターとしても大変希望している。対応をお願いしたい。

市 現在、環境事業課とも課題について協議しているところである。他都市の状況も参考にしながら、ふれあい収集事業の拡充に向け検討していきたい。

⑤ 「介護保険サービスの充実」について……………資料5

委員 不納欠損についてどのような対応をしているのか、詳細な報告を求める。

市 介護保険料の納付の時効は2年間と短いことや、被保険者の死亡や相続人がいないなど徴収が困難となる場合もあり、不納欠損額として計上することとなっている。徴収に努め不納欠損額は年々減少してきているが、今後もさらに減少できるよう努力する。

委員 徴収に努めていただき収納率が年々向上しているが、不納欠損があると介護保険財政に影響するので今後も努力していただきたい。

委員 要支援・要介護認定者数を見ると、要支援と要介護1という軽度の人数が約半分を占めている。要支援だけでも4分の1になる。介護予防がいかにか大事かがここからも分かる。委員の話にもあったが、栄養面、身体面や心の問題も含めて介護予防に対応することが介護保険全体の向上となる。

⑥ 目標設定の達成状況及び実績評価について……………資料6

(2) 地域密着型サービスに関して……………資料7

(3) 地域包括支援センターの活動実績について……………資料8

委員 包括支援センターは幅広い事業に取り組んでいただいている。これからさらに重要になってくる。限られた人員体制での取り組みであるので、人員の充実も含めてご検討いただき、今後ともご支援いただきたい。

4 その他

委員 冒頭にも申し上げたが、報告の際には直近のデータも合わせて報告いただくとありがたい。また、事業の未実施の理由を分析していただきたい。コロナだけではない理由があると思う。その点も示されると委員からも意見を出しやすい。

5 閉 会